

## 第5節 光構内(御手洗遺跡)の調査

## 1. 教育学部附属光小学校バスケットゴール設置工事に伴う立会調査

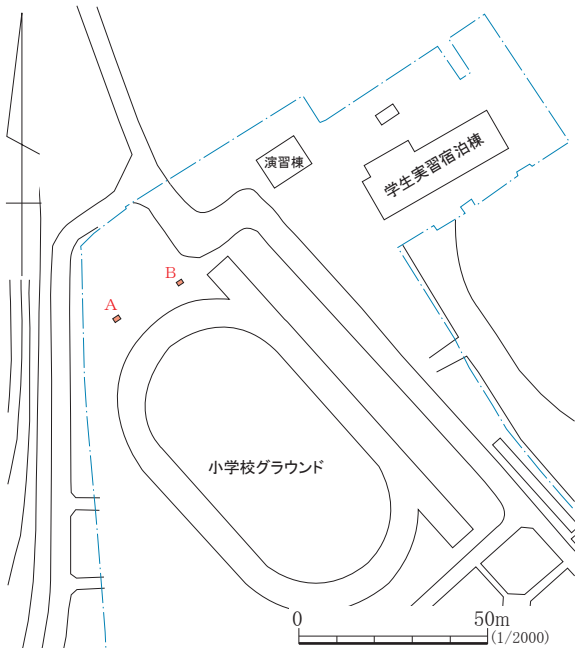


図 68 調査区位置図

調査地区 光構内

調査面積 約4㎡

調査期間 平成29年1月15日

調査担当 田畑直彦

## 調査結果

教育学部附属光小学校でバスケットゴールの設置工事が計画された。地下掘削は支柱を設置する2箇所(A・B地点)で実施され、掘削後に立会調査を実施した。

A地点の平面形は約180cm×約120cm、B地点の平面形は約160cm×110cmであった。A地点では現地地表下16cmまでが表土で、以下16～50cmで造成土、50～56cmで明黄褐色(2.5Y6/6)細砂(0.5～3cm大の礫含む)、56～74cmで明黄褐色(2.5Y7/6)粗砂(0.5～3cm大の礫含む)、74～104cmで黄色(2.5Y8/6)粗砂(0.5～3cm大の礫含む)を検出した。B地点では、現地地表下19cmまでが表土で、以下19～58cmで造成土、58～80cmで明黄褐色(2.5Y6/6)粗砂(0.5～3cm大の礫含む)、80～100cmで明黄褐色(2.5Y7/6)細砂(0.5～3cm大の礫含む)を検出した。

既往の調査から、A・B地点の造成土以下は近世以前の堆積層とみられる。壁面・床面を精査したが、遺構はなく、遺物も出土しなかった。掘削土の一部も精査したが遺物は確認できなかった。

今回の工事では埋蔵文化財の保護に支障は生じなかったが、正門付近や演習棟周辺では遺物包含層や遺構が確認されていることから、引き続き、慎重な対応が必要である。

## 【註】

- 1) 田畑直彦(2016)「教育学部附属光小学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成24年度—』,山口



写真 199 A地点土層断面(南から)



写真 200 B地点土層断面(南から)